【様式４】令和2年度　学校自己、及び、学校関係者評価表　武蔵村山市立第一中学校

経営理念	学校像　(1)基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を目指し、授業の充実・改善を図り、心身ともに健やかな生徒が育つ学校 (2)地域との連携を図り、地域から学び、地域に貢献できる生徒が育つ 学校 (3)道徳的心情や道徳的実践力を身に付けることを目指し、心豊かな生徒が育つ学校

【学校運営協議会・会長】小泉　亨
学校運営協議会（学校評価分）第１回　　７月２１日（火）
第２回　１０月２０日（火）
第３回　　２月１６日（火）

	経営目標 （中期・短期を明記）	目標達成のための方策	評価指標	自己評価 9月 1月 目標値 達成値 達成値	自己評価 最終評価 達成度	自己評価 最終評価 評価	分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標)	学校関係者評価 意　見	学校関係者評価 評価点 （4点満点）
確かな学力の向上	【共通】全生徒に対しての基礎学力の定着　短期	・授業規律の徹底、放課後や長期休業日、地域未来塾を活用した補充学習や質問教室等の実施（地域未来塾年間７０回以上。夏休み補充教室５日以上実施） ・各教科や学年において、家庭学習を習慣化するための取組を推進する。（eライブラリアドバンスを活用した個別学習推進。８割以上の継続実施）	補習や質問教室等の実施回数 eライブラリの継続実施割合 教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価	80 70	88	A	・落ち着いた授業環境は整っているが、全生徒への基礎学力定着には至っていない。 ・学習の遅れを取り戻すために夏休み補充教室10日間、地域未来塾30回を実施したが、参加者の意欲が低い。 ・学力向上に関する保護者の認識を高めるためにも、学力に関する情報発信は必要である。	・eライブラリアドバンスを活用した家庭学習推進を全校体制で取り組み、年度末には継続して活用できる生徒8割以上を目指す。 ・授業の様子をツイッターやHPを通じて週1回以上発信する。	・学校全体に落ち着いて授業に臨む環境ができている。 ・コロナ禍において計画的に家庭学習を実行できている。GIGAスクールを活用して一層の定着を図ってほしい。 ・保護者の授業に対する認識が薄いことがアンケートから伺われる。公開授業だけでなく、ホームページ等を使って授業の様子など積極的に情報発信して欲しい。	3.7
	教員の授業力向上　中期	・生徒による授業評価を年２回実施し、授業力を自己分析しながら、分かる授業づくりを目指す。 ・週ごとの指導計画を年間指導計画と照合しながら記述させ、臨時休校の遅れによる履修不十分な教科がでないよう進行管理する。年間２回以上他者の授業参観または授業公開を実施し、教員相互で授業改善を進める。	教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価	90 85	94	A	・昨年に比して授業評価が全体的に上昇した。教科間の差も縮小した。 ・道徳の指導案検討を通して教師相互の授業方法の改善が見られた。	・道徳授業の研究を通して教員同士の交流をさらに深め、授業改善を進めていく。 ・教科の年間指導計画を週案と共に提出し、管理職が進行状況をチェックすることを継続する。さらにGIGAスクールに向けてのタブレット活用授業を月1回以上実施し週案で報告する。	・授業方法の向上に向けた教員相互の意見交換が活発に行われている。 ・視覚に訴える方法などで、教員の個性が発揮された内容となっている。	3.8
	校内研究による生徒の変容　長期	・一中校区内の授業交流を年３回持ち回りで実施する。 ・校区研究テーマ『感じたことを大切にし、思いや願いを実現する児童・生徒の育成』を目指して道徳授業において実践を進める。（７月一中で道徳研究授業実施） ・校内研究テーマ『特別の教科道徳における話し合い活動などを通して生徒の意見や考えを深める授業構成・発問設定の工夫』をテーマに年３回の研究授業と協議会を実施する。	教員の自己評価 生徒の評価 学校運営協議会の評価	80 80	100	A	・コロナ禍で、授業交流は実施できなかった。 ・校内研究を道徳に設定し、学年や教科の壁を越えて指導案を検討し合うことで教員間の交流が深まり、結束力が高まった。	・次年度はコロナの収束を待ち、できる限り年3回の授業交流会を実施する。 ・同じ「道徳」をテーマとした校内研究をさらに深め、そこで得た授業展開の工夫やスキルを自教科に生かす。	・道徳教育では、生徒全員が積極的に意見表明するなど活性化が図れている。 ・授業内容が様々に工夫されていて、生徒の考え方を引き出して議論できる授業になっている。	3.7
豊かな心の育成	【共通】いじめ撲滅への取組　短期	・年３回いじめに関する授業を実施して、いじめについて深く考える機会とする。また、道徳や特別活動の充実を図って生徒の自尊感情を高め、思いやりの心を育む。 ・生徒会による年２回の『いじめ撲滅キャンペーン』を実施し、生徒自身がいじめについて考え行動できる力を育む。	教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価 学校運営協議会の評価	90 75	83	A	・学校生活は細かいいたずらが増え、やや落ち着かない状況になっている。特に家庭におけるネットを通じたいじめやトラブルが増加しており、指導が後手に回っている。 ・コロナ禍で「いじめ撲滅キャンペーン」も不十分であり、来年度は生徒会の活躍場面をつくりたい。	・ネットモラルを高めるため、保護者・教職員の研修、生徒への教育の機会を全校体制で年１回以上実施する。 ・生徒会主催の「いじめ撲滅キャンペーン」を年2回実施する。	・生徒アンケートで「一中が楽しく安心」と考える比率が継続して増加しており成果が上がっている。"そう思わない"の1.8%の生徒を注視して一層の取組みをお願いする。 ・生徒会が主導して、いじめについて生徒たちが考える機会を作る活動が良い方向に動いている。	3.5
	特別な支援を要する生徒への対応　中期	・管理職、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭、学年主任等による校内委員会を毎週開催し、個々の生徒への対応を協議して支援体制を確立する。 ・特別支援C、巡回指導員、特別支援教室専門員の連携を密にし、特別支援教室の運営を軌道に乗せる。	校内委員会の実施回数 特別支援教室利用生徒数 教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価	90 85	94	A	・特別支援教室の運営は軌道に乗せることができた。生徒・保護者への周知・活用が進み、来年の利用予定者は今年の3倍になった。 ・月1回の巡回心理士を交えての校内委員会も充実しており、支援体制は確立できた。	・不登校生徒や相談室登校生徒が増加している。『学校に行きたくない。』という悩みが出始めた時点で、担任任せにせず組織的に対応していく体制づくりをする。 ・SCや巡回心理士のような専門家の力をさらに生かせるように、管理職とコーディネーターで検討して活躍場面を増やす。	・特別支援教室が開設され体制が向上できた。教員の対応力も向上している。	3.5
	挨拶をよくする生徒の育成　長期	・今年度生活指導部の重点指導項目に挨拶運動を位置づけ、まず教員が率先垂範して挨拶の活性化に努める。 ・職場訪問、宿泊学習、地域のボランティア等の活動を通して、地域社会の方々に礼儀正しく挨拶や感謝の言葉が述べられる生徒の育成を目指す。	教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価 学校運営協議会の評価	80 60	75	B	・生徒会主催の「あいさつ運動」へ教員も積極的に参加することで一定の効果は見られたが、持続しなかった。 ・コロナ禍で地域活動や宿泊行事がすべて中止となり、実践的な機会がもてなかった。学校評価は生徒・保護者共に低く、『過去の一中生はもっと挨拶ができた』との意見も多数聞かれた。	・「あいさつ運動」への教員参加を定着させて、さらに機運を盛り上げる。 ・コロナ収束後にはキャリア教育と連動して『あいさつができる』ことの価値について考えさせ、地域行事や職場体験等の場で実践させていく。	・教員も参加した「あいさつ運動」で全体の意識が高められている。 ・生徒・教員間のコミュニケーションとしてのあいさつは活発になっているが、訪問者等への礼儀としてのあいさつが低調に見える。相互に雰囲気作りを心掛けたい。	3.1
健やかな体の育成	オリンピック・パラリンピック教育の推進　中期	・学級活動や保健体育、図書室のコーナーつくりを中心に、オリンピック競技やオリンピアン、パラリンピアンの活躍に触れ、全学年でオリ・パラの調べ学習に取り組むことで、生徒の意識を高める。 ・課題である『持久力』、『調整力』を体育の授業での６分間走やコーディネーショントレーニングの取組で高める。	体力テスト結果の変容 教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価	75 70	93	A	・オリンピック・パラリンピックの開催延期で、機運の盛り上がりに欠けたが、調べ学習は継続し、男女共修の『ダンス』授業に講師を招き、ダンス発表会では多くの保護者の参加を得て、成果を上げた。 ・６分間走、コーディネーショントレーニング棟には全学年取り組んでいる。	・来年度はオリンピック・パラリンピックが開催され、生徒たちが生涯残る感動を得られるよう、酷暑の時期に生徒全員が安全に観戦を実施できるよう万全を尽くす。 ・一中の伝統になりつつある『ダンス』の授業を中心に、生涯スポーツにつながる『運動を楽しむ機会』を増やしていく。	・オリンピック、パラリンピックの開催延期で具体的な取組みが実施できていない。同世代も活躍していることを知って、生徒一人ひとりの活動の活性化につなげたい。	3.2
	特別活動の充実　長期	・運動会、球技大会等の体育的行事や部活動などを通して自ら進んでスポーツに親しみ、生涯通して健康な生活を送ることができる基盤をつくる。 ・クリーン作戦や資源回収、芝生ボランティア等の労働を伴うボランティア活動を推進し、心身を鍛える。	教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価	90 70	77	B	・コロナ禍で運動会は大幅な縮小になったが、生徒の満足感は高く、保護者共に評価は高かった。部活動への評価も昨年より高く、短期間ながら充実した活動ができた。 ・コロナ禍で、ボランティア活動は例年の２割程度しか実施できなかった。	・体育的行事や部活動については、今年度同様新しい生活様式の中で無理のない計画を立て、生徒の満足感が最大限得られるような活動にしていく。 ・コロナ収束後には例年同様のボランティア活動を実施していきたい。	・各種行事の中止、部活動の時間の制約の中で、実施できた行事や部活動ではこれまで以上に集中して取り組めている。地域のサポートが必要な部分には声をあげて欲しい。 ・運動の苦手な生徒へも配慮した全員が楽しめる行事づくりを検討して欲しい。	3.4
信頼される学校	地域行事やボランティア活動への積極的な参加　短期	・年間１２回以上のボランティア活動を実施し、生徒と教員併せてのべ４００名以上の参加を目指す。 ・進んで参加し、人の役に立つことで喜びを味わう、本来のボランティア精神を獲得できるような活動になるよう、募集段階から方針の見直しを進める。	生徒の活動状況 生徒の評価 地域・保護者の評価 教員の自己評価	85 50	58	B	・コロナ禍で、年間3回の実施にとどまった。参加者も100名程度で、目標を大きく下回った。 ・本来のボランティア精神に基づく活動になるよう、生徒会に働きかける予定だったが、活動の制約の中で実現しなかった。	・来年こそ、今年の目標が達成できる年にしたい。また、学校関係者評価にもあるように、見える形でボランティア参加者を評価する場面を設定したい。 ・生徒会が主体となってボランティア活動年間計画を立案し、1年を通して募集、実施、評価（表彰？）の循環ができるように指導していく。	・ボランティア活動への参加者に偏りがある。見える形で評価することで全体の活性化を図ってほしい。 ・ボランティアを難しい活動と考えず、自分にできることをやってみる、という意識を醸成して欲しい。 ・地域で困っていること、中学生に依頼したいこと、等の情報を提供できる場を作りたい。	2.6
	地域の人材を活用した教育活動の実践　中期	・コミュニティ・スクールの活動の充実を図り、教職員と地域、保護者が共に教育活動を行う機会を増やす。 ・地域人材による授業『チィキチィキフェスティバル』にPTA主催の新規講座を導入し、生徒の体験活動の幅を広げ、地域・保護者とのつながりを更に強める。	外部人材活用の実施状況 教員の自己評価 生徒の評価 学校運営協議会の評価	90 60	66	B	・2学期から月1回の学校運営協議会を行ったが、例年行っている活動はコロナの制約でほとんど実施できなかった。 ・『チイキチイキフェスティバル』は実施できなかったが、2学期半ばまで開催の方向で準備は進めていたため、来年度以降の地域人材確保はできた。	・来年度は今までの活動をすべて実施すると同時に、学校運営協議会の日程を学校行事の日に重ねて、できるだけ全生徒の様子を参観してもらえるようにする。 ・PTA教養保健部と連携して新規講座を開設し、更に生徒の参加意欲を高め、地域人材との交流が活発になるよう工夫していく。	・コロナ禍で地域と交流できる機会が激減している。これまで培った交流ルートや人材をつなぐ努力を継続して、コロナ後の立ち上げに備えて欲しい。	3.0
	特別活動の充実 広報活動の強化　長期	・学級活動や生徒会活動において、自発的・自治的な活動となる取組を充実させるため、校内研究会に講師を招いて研修を深める。そこで学んだことを実践に移す。 ・学校ホームページの更新回数や一斉メール送信回数を増やし（月２回以上）、家庭へのリアルタイムな情報発信を目指す。	研修実施回数 情報発信回数 教員の自己評価 生徒の評価 保護者の評価	85 55	64	B	・特別活動のための講師は招聘できなかったが、活動が制約される中でも、修学旅行やスキー教室、校外学習の準備は実行委員会組織を立ち上げて自治的な活動となるよう指導した。 ・休校期間は一斉メール送信を多用したが、その後ホームページの更新は滞り、学校評価も低い値だった。	・実行委員組織や班長会等の指導は全校的に取り組んでいるので、継続して自治的活動を推進する。学級経営の悩みをもつ教員が相談しやすい研修会講師を招聘する。 ・来年度ICT委員会を立ち上げ、ホームページの更新を確実に行う部署を設置する。また、最近停止していたツイッターを再開し、リアルタイムな情報発信を行う。	・学校ホームページが活用できていない。更新頻度を上げて学校の情報をタイムリーに入手できるツールに改善して、生徒と保護者のコミュニケーションにも役立てたい。	2.9
									平均値	3.3

【達成度】＝［達成値］／［目標値］
【評価】　A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定　　B：８割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施　　C：5割未満→目標の見直し